

JPX 日経インデックス 400 先物取引の取引状況 - 更なる市場拡大に向けて

株式会社大阪取引所 市場企画部 調査役 今村文彦

- 要旨 -

2014 年 1 月 6 日、投資者にとって投資魅力の高い会社で構成される新しい株価指数として JPX 日経インデックス 400 の算出・公表が開始された。同月には東京証券取引所に JPX 日経インデックス 400 を連動指数とする ETF が上場し、同年 11 月 25 日には大阪取引所にて JPX 日経インデックス 400 先物取引の取引が開始された。JPX 日経インデックス 400 先物取引は上場初日に 7 万単位超の取引高を記録し、現在では大阪取引所の主力商品の 1 つとして認識されるまでに市場に定着している。

本稿は、JPX 日経インデックス 400 先物取引の取引状況をより多くの皆様に知っていただくことを本旨とし、併せて指数そのもの及び JPX 日経インデックス 400 関連現物市場についても俯瞰するものである。なお、本稿の意見部分は筆者の個人的見解であり、JPX としての公式見解ではないことをあらかじめお断りする。

- 目次 -

1. JPX 日経インデックス 400
 - (ア) 指数のあらまし
 - (イ) 国内現物市場の動向 - ETF、公募投資信託
 - (ウ) 機関投資家による利用 - GPIF
 - (エ) 海外 ETF 市場の動向
 - (オ) 海外投資家の JPX 日経 400 に対する評価
2. JPX 日経インデックス 400 先物取引 制度概要
 - (ア) 取引制度概要
 - (イ) マーケットメイカー制度
3. JPX 日経インデックス 400 先物取引の取引状況
 - (ア) 取引高及び建玉残高
 - (イ) 投資部門別取引状況
 - (ウ) 相場急変時の取引状況
4. JPX 日経インデックス 400 先物取引の更なる市場振興に向けて
 - (ア) 認知度向上施策
 - (イ) 次期 J-GATE 稼働と JPX 日経インデックス 400 オプション取引(2016 年央予定)

- 本文 -

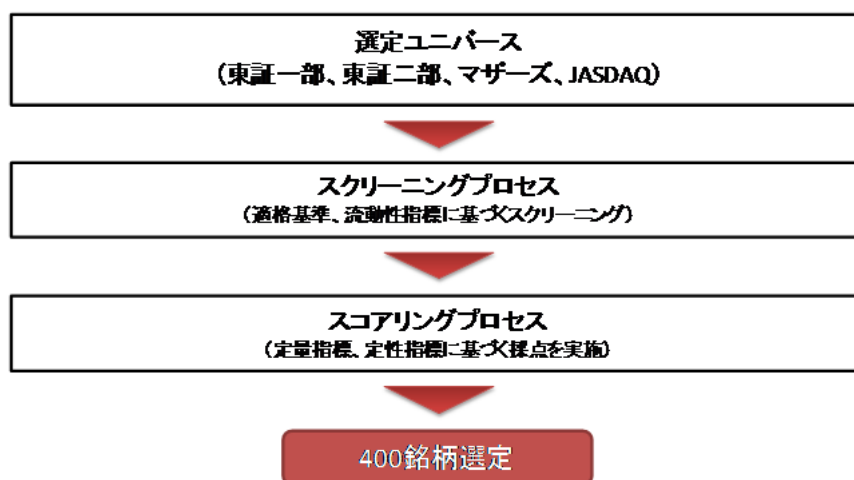
1. JPX 日経インデックス 400

大阪取引所は、2014 年 11 月 25 日に JPX 日経インデックス 400 先物取引（以下「JPX 日経 400 先物」という。）の取引を開始した。本節ではまずは JPX 日経 400 先物の取引対象指数である JPX 日経インデックス 400（以下「JPX 日経 400」という。）及び同指数連動現物市場の動向を俯瞰する。

(ア) 指数のあらまし

2014 年 1 月 6 日、日本取引所グループ（以下「JPX」という。）及び東京証券取引所（以下「東証」という。）並びに日本経済新聞社（以下「日経」という。）は、新しい株価指数である「JPX 日経インデックス 400」の算出を開始した。JPX 日経 400 は投資魅力の高い日本企業を国内外にアピールすることを本旨として開発されており、資本の効率的利用に関するグローバルな評価尺度である株主資本利益率（ROE）を構成銘柄選定基準の一つとして使用する点に特徴がある。

図表 1. 指数選定プロセス



出所：JPX、東証、日経

JPX 日経 400 は TOPIX と同様に浮動株調整時価総額加重型の指数であるが、指数銘柄数、構成銘柄の母集団及び構成銘柄ごとのキャップといった点で TOPIX とは指数としての性格を異にするものである。例えば、構成銘柄ごとの 1.5%キャップにより指数構成ウエイト上位 3 銘柄が占める総ウエイトは 5%を切る水準に収まっており、効果的な分散投資効果を得られる指数設計となっている。

図表 2. 株価指数の特徴比較

	JPX 日経 400	TOPIX	日経平均株価	
銘柄数	400	約 1,900 (市場第一部全銘柄)	225	
銘柄選定の母集団	東証上場銘柄 (市場第一部、市場第二部、マザーズ、JASDAQ)	市場第一部	市場第一部	
定期入替	公表：8 月第 5 営業日 入替：8 月最終営業日	随時	10 月初旬	
算出方式	浮動株調整 時価総額加重型 (1.5%キャップ付き*)	浮動株調整 時価総額加重型	株価平均型	
ウェイト 上位銘柄 (2015 年 11 月 5 日 時点)	銘柄名	ウェイト	銘柄名	ウェイト
	日本たばこ	1.7%	トヨタ	4.1%
	NTT	1.6%	三菱 UFJFG	2.7%
	KDDI	1.5%	三井住友 FG	1.6%
	3 銘柄合計：4.9%		3 銘柄合計：8.5%	
			3 銘柄合計：17.8%	

出所：JPX、東証、日経、ブルームバーグを基に大阪取引所作成

*定期選定基準日における時価総額ウェイトを元に構成比率 1.5%を上限とするキャップ調整後浮動株比率とする。定期選定後にキャップ上限を超える場合においても翌年の定期選定反映日までキャップ調整比率は変更しないものとする。

図表 3 は左軸に 2014 年 1 月 6 日を基準値=100%とした場合の JPX 日経 400、TOPIX 及び日経平均株価（以下「日経 225」という。）の指数値推移を、右軸に JPX 日経 400 と他指数とのパフォーマンスの差を示したものである。

図表3. JPX日経400・TOPIX・日経225の推移

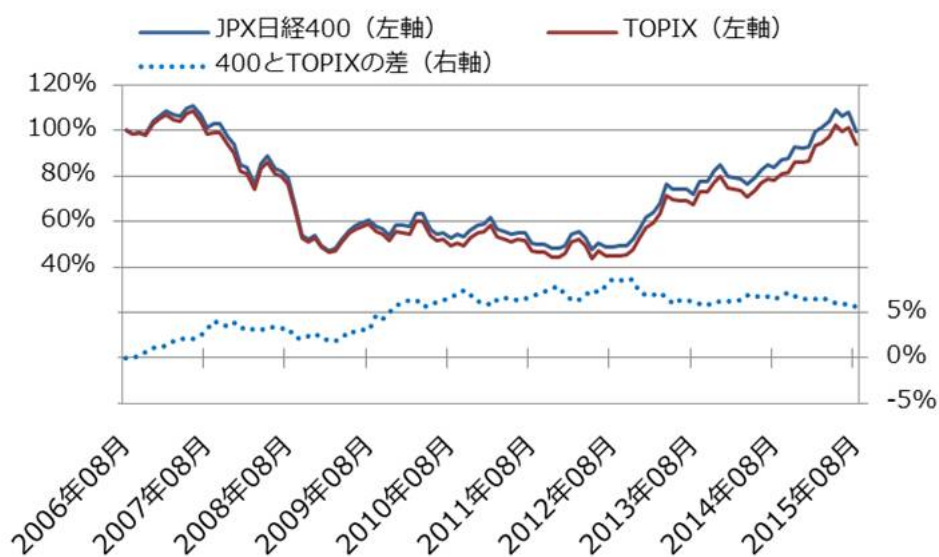


出所：東証。2014年1月6日から2015年10月30日まで。

基準日（2014年1月6日）における指数値を基準値（100%）に換算。

左軸は2014年1月6日を基準日とし、基準日における指数値を100%とした場合の指数推移である。3指数の推移は、これまでのところ非常に似通っており破線で示したパフォーマンス比較（右軸）でも一貫してどれか一つの指数が常に他の指数をアウトパフォームしている状況はない。図表3の破線に示したとおり、特にJPX日経400とTOPIXの推移は似通っているが観測期間を長期化させると景色は変わってくる。図表4は、JPX日経400開発時のバックテストのデータを元に作成した2006年8月まで遡ってのJPX日経400とTOPIXのパフォーマンス比較である。あくまで同期間におけるパフォーマンス比較であって同様の傾向が将来に渡って継続することを保証するものではないが、同期間においてはJPX日経400がTOPIXを約5%アウトパフォームしている。

図表4. JPX日経400とTOPIXのパフォーマンス比較（2006年8月～）



出所：東証。2006年8月31日から2015年8月31日まで。

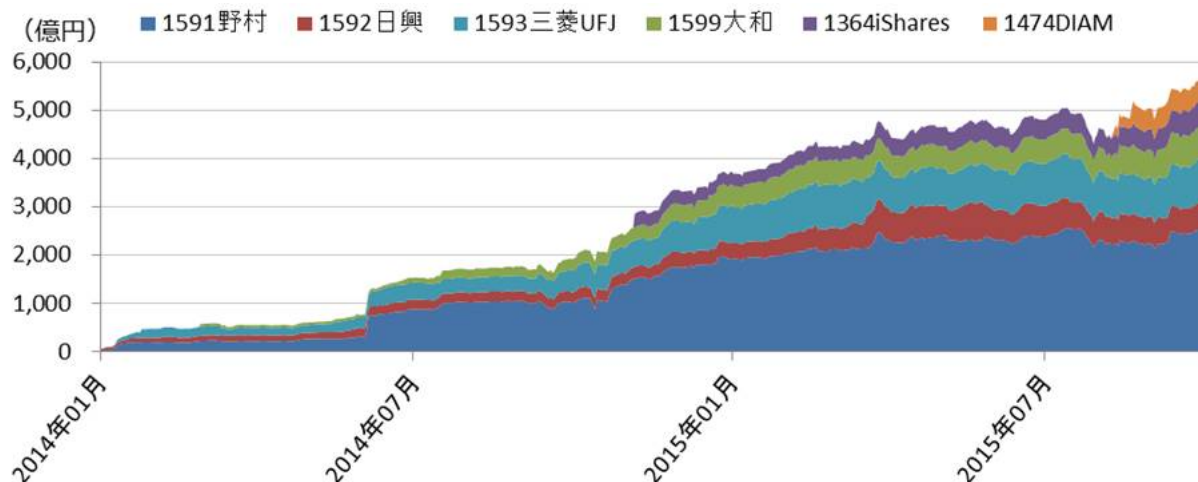
基準日（2006年8月31日）における指数値を基準値（100%）に換算。

(イ) 国内現物市場の動向 - ETF、公募投資信託

JPX日経400を連動資産とするETFは、指数の算出・公表が開始された2014年1月に第1号となるETFが上場して以来、プレーン型（1倍）のETFは6銘柄に増加し、6銘柄合計の時価総額は5,600億円（2015年10月30日時点）に達している。また、2015年8月3日にはJPX日経400のレバレッジ指数及びインバース指数の算出・公表が開始¹され、同月24日にはレバレッジ型（2倍）ETF3本、インバース型（マイナス1倍）ETF3本及びダブルインバース型（マイナス2倍）ETF3本が上場した。これに伴い、投資家はJPX日経400を通じても市場のトレンドに合わせてより大きなリターンを目指す、あるいは市場の変動リスクを回避するといったETF運用が可能となっている。

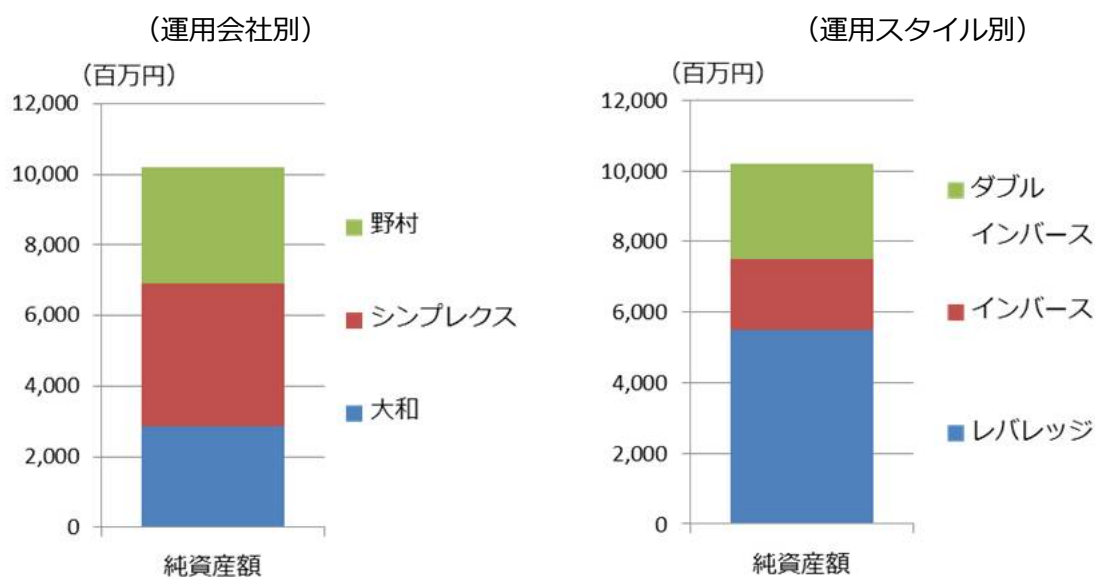
¹ <http://www.jpx.co.jp/news/1044/20150522-01.html>

図表 5. プレーン型 JPX 日経 400 連動 ETF 時価総額推移



出所：東証。2014年1月28日から2015年10月30日まで。

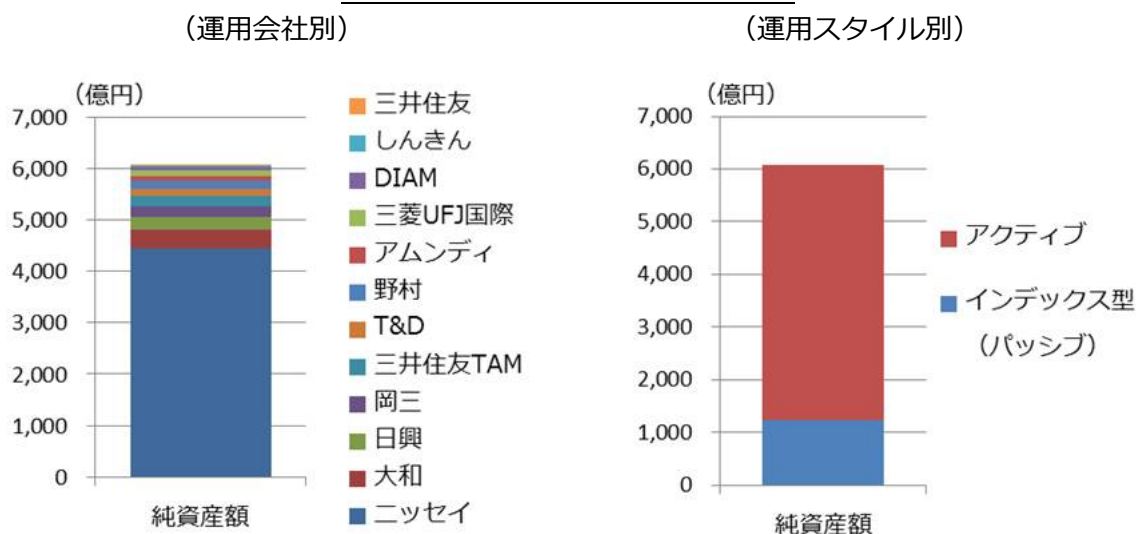
図表 6. レバレッジ・インバース型 JPX 日経 400 連動 ETF 時価総額推移



出所：東証。2015年10月30日時点。

JPX 日経 400 を連動資産とする公募投資信託は 2015 年 10 月 30 日時点で 25 種類に達しており、合計の純資産総額は 6,000 億円を突破している (図表 7)。運用スタイル別ではインデックス型 (パッシブ) だけでなく指数をアウトパフォームすることを狙ったアクティブ型も多く販売されており、投資家に多様な選択肢を提供している。

図表 7. JPX 日経 400 関連公募投信



出所：モーニングスター。2015年11月5日時点。

(ウ) 機関投資家による利用 - GPIF

2014年4月、年金積立金管理運用独立行政法人（以下「GPIF」という。）は、国内株式のパッシブ運用のベンチマークにJPX日経400など3つの指数を新たに採用すると発表した²。GPIF業務概況書によると、GPIFのJPX日経400連動資産は2014年3月末時点の1,511億円（国内株式資産の0.7%）から2015年3月には1兆6,682億円（同5.3%）へと、1年間で11倍に増加した。また、地方公務員共済組合連合会（2015年3月末の資産残高21兆685億円³）、国家公務員共済組合連合会（同7兆8,013億円⁴）及び日本私立学校振興・共済事業団（同4兆1,925億円⁵）のいわゆる3共済の中で最大の運用資産を有する地方公務員共済組合連合会も、2014年11月にJPX日経400をベンチマークとした運用プロダクトを選定する旨を公表している⁶。

更に、GPIF及び3共済の4者は、2015年10月1日から同一の資産の構成割合（ポートフォリオ）を適用する旨を発表しており⁷、これら機関投資家による更なるJPX日経400の利用が期待される。

² http://www.gpif.go.jp/topics/2014/pdf/gpifs_selection.pdf

³ http://www.chikyoren.or.jp/sikin/pdf/joukyo_h26.pdf

⁴ http://www.kkr.or.jp/shikin/2015_unyou.pdf

⁵ http://www.shigakukyosai.jp/shokai/shisan/files/k_unyou_kekka_26.pdf

⁶ <http://www.chikyoren.or.jp/sikin/sonota.html>

⁷ http://www.gpif.go.jp/public/activity/pdf/model_portfolio.pdf

図表 8. GPIF の JPX 日経 400 連動運用資産の運用委託先及び委託金額 (単位: 億円)

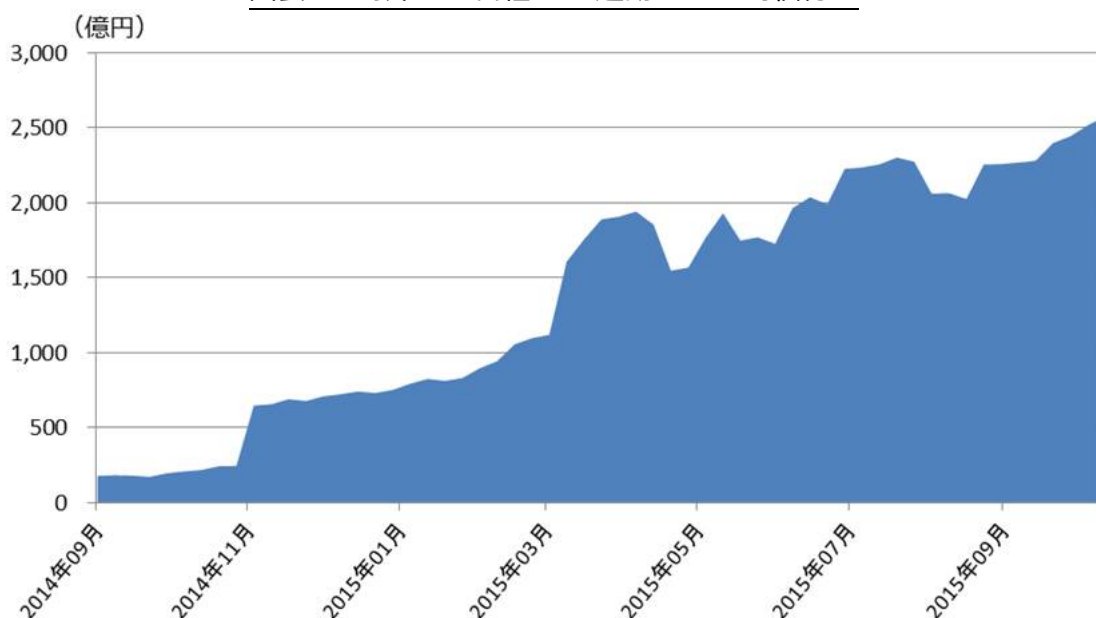
	DIAM AM	三井住友信託 銀行	三菱 UFJ 信託 銀行	合計
2014年3月末	504	504	503	1,511
2015年3月末	5,549	5,559	5,574	16,682

出所: GPIF

(工) 海外 ETF 市場の動向

JPX 日経 400 は日本国内だけでなく海外においても、とりわけ欧州の投資家から大きな注目を集めており、欧州では 2014 年 9 月、米国では 2015 年 6 月にそれぞれ最初となる JPX 日経 400 連動 ETF が上場している。このような海外での活発な JPX 日経 400 の利用の流れを受け、JPX 及び東証と日経は、2015 年 1 月に US ドル、ユーロ及び英国ポンドを、同年 5 月にはスイスフランを対象通貨とした JPX 日経 400 為替ヘッジ指数の算出・公表を開始している⁸。外国通貨で取引する投資家にとっては従前の為替ヘッジ無し ETF に加えて為替ヘッジ有り ETF という投資選択肢が増え、利便性が向上したことになる。

図表 9. 海外 JPX 日経 400 連動 ETF の時価総額



出所: ブルームバーグを基に大阪取引所作成。2014年9月15日から2015年10月30日。

外国通貨建て時価総額は2015年10月30日の為替レートにて円換算。

図表 10. 発行会社別海外 JPX 日経 400 連動 ETF 時価総額

#	発行会社	通貨	時価総額 (億円)
1	LYXOR	ユーロ、US\$、ポンド、JPY、スイスフラン	1,045
2	AMUNDI	ユーロ、US\$、ポンド、JPY	535
3	Source	ユーロ、US\$、ポンド	356
4	Deutsche Asset & Wealth Management	ユーロ、US\$、ポンド	163
5	Nomura Alternative Investment Management	ユーロ、US\$	242
6	iShares	ユーロ、US\$	201
-	合計	-	2,543

出所：ブルームバーグ、各社ホームページを基に大阪取引所作成。2015 年 10 月 30 日時点。

図表 9 のとおり、海外においても JPX 日経 400 連動 ETF の時価総額は順調に増加しており、今年 10 月 30 日時点での時価総額は 2,500 億円（外貨建て ETF の時価総額を円に換算）に到達している。特に、為替ヘッジ ETF が上場し始めた今年 2 月以降は一段と加速している。また、iShares Japan Large-Cap ETF は、2015 年 9 月に連動対象指数を S&P/TOPIX 150 から JPX 日経 400 に変更しており⁹、JPX 日経 400 の活用が進んでいる。

(オ) 海外投資家の JPX 日経インデックス 400 に対する評価

筆者は昨年 9 月及び本年 6 月に欧州投資家を訪問し JPX 日経 400 の利用状況を調査したが、その際に印象的であったのは多くの海外投資家がアベノミクス第三の矢である成長戦略の中核として日本企業のコーポレートガバナンスの向上を強く意識しており、JPX 日経 400 を「優れたコーポレートガバナンスを備え、中長期的に高い収益を上げることができる企業にフォーカスしたベンチマーク」として非常に好意的に評価していたことである。例えば、ある投資家からは「将来の成長力も含めた形で日本企業の実力を正確に反映した指数として JPX 日経 400 は日本株市場の新たなベンチマークになり得る」、またある資産管理会社からは「大口顧客からの要請に応える形で JPX 日経 400 をトラックするファンドを立ち上げることになった」との話が聞かれた。海外投資家の間ではコーポレートガバナンスコード、スチュワードシップコード及び JPX

⁹<https://www.ishares.com/us/literature/fact-sheet/itf-ishares-japan-large-cap-etf-fund-fact-sheet-en-us.pdf>

日経 400 を一つに結びつけた形で認識され始めており、今後も日本におけるコーポレートガバナンス向上が推進されるにつれ、JPX 日経 400 が国内投資家だけでなく海外投資家にとってもより魅力的な日本株ベンチマークとして認知され、金融商品の組成等においてますます活用されることが期待される。

2. JPX 日経インデックス 400 先物取引 制度概要

これまでに述べた JPX 日経 400 の投資家への浸透及び国内外における連動現物資産の活用の拡大に鑑みるに、JPX 日経 400 先物取引は、ヘッジニーズという観点でも、多様な投資手法の実現という観点でも、投資家のニーズが十分に高まった状態で取引が開始されたと言える。本節では JPX 日経 400 先物の制度概要を俯瞰し、その特徴及び狙いを紹介する。

(ア) 取引制度概要

JPX 日経 400 先物の特徴の一つとして取引単位が「指数値×100 倍」、すなわち先物 1 単位当たりの想定元本が 100 万円台のいわゆるミニサイズの商品であることが挙げられる。ミニサイズの商品性により、きめ細かいポジションの管理が可能となるだけでなく、取引開始に必要な証拠金が比較的低い水準に抑えられることから多様な投資家が参入しやすい先物商品となっている。

図表 11. JPX 日経 400 先物取引制度概要

	JPX 日経 400 先物	(参考) 日経 225mini	(参考) ミニ TOPIX
原資産	JPX 日経 400	日経 225	TOPIX
取引時間	9:00-15:15、16:30-翌 3:00 (翌日取引)		
取引最終日	第 2 金曜日の前営業日		
限月数	5 限月 (四半期限月)	10 限月 (6 月及び 12 月) 3 限月 (3 月及び 9 月) 上記以外の直近 3 か月	3 限月 (四半期限月)
取引単位	100 倍	100 倍	1,000 倍
想定元本	約 131 万円	約 180 万円	約 146 万円
最低証拠金*	5 万 8,500 円	8 万 4,000 円	6 万 4,500 円
呼値の単位	5 ポイント	5 円	0.25 ポイント
J-NET 取引	あり		

出所: 大阪取引所、日本証券クリアリング機構。想定元本及び最低証拠金は 2015 年 11 月 5 日時点。

*JSCC が公表するプライススキャンレンジに基づく。

JPX 日経 400 先物の取引時間は、他の主要な指数先物商品と同じく午前 9 時から翌午前 3 時であり、現物市場で取引が行われていない夜間にも取引することができる。また、JPX 日経 400 先物の証拠金は大阪取引所に上場している日経 225 先物、TOPIX 先物、TOPIX Core30 先物、東証銀行業株価指数、NY ダウ先物、インド Nifty50 先物との商品間スプレッド割引が可能であり、投資家の証拠金負担の軽減が可能な仕組みとなっている¹⁰。

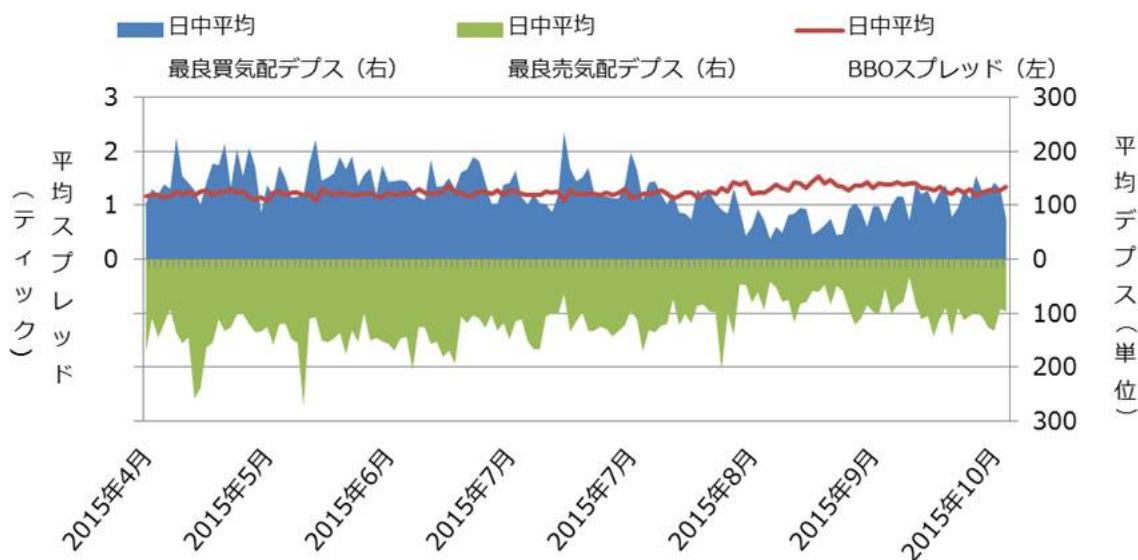
(イ) マーケットメイカー制度

大阪取引所のマーケットメイカー制度¹¹は、大阪取引所の指定を受けた取引参加者が一定の値幅内で恒常的に売り呼値及び買い呼値を提示することで市場に流動性を供給する制度である。JPX 日経 400 先物では、日中立会（午前 9 時から午後 3 時 15 分）については 2014 年 11 月の取引開始時に、ナイト・セッション（午後 4 時 30 分から翌朝 3 時まで）については 2015 年 2 月にマーケットメイカー制度が導入されており、日中立会では 13 社、ナイト・セッションでは 2 社がマーケットメイカーに指定されている。一般に、マーケットメイキングの手法はマーケットメイカーごとに異なるため、複数のマーケットメイカーが存在することでよりタイトなベスト・ビッド・オファー・スプレッド（最良売り呼値と最良買い値幅の差。以下「BBO スプレッド」という。）の実現が可能となる。JPX 日経 400 先物の日中立会の BBO スプレッドは、幅広い時間帯において最少スプレッドである 1 ティックで推移しており、最良売り呼値及び買い呼値のデプス（呼値の数量）は 100 単位以上の時間帯が多くなっている。ナイト・セッションについてもマーケットメイカー制度導入以降に BBO スプレッドの改善が見られ、特に米国の重要指標発表に伴い取引高が増加する 22 時 30 分前後等の取引高が高まる時間帯においてタイトなスプレッドを実現している。

¹⁰ 詳細は日本証券クリアリング機構提供情報を参照。

¹¹ <http://www.jpx.co.jp/derivatives/rules/market-maker/index.html>

図表 12. BBO スプレッド及びデプス (日中立会)



出所：ロイターを基に大阪取引所作成。2015年4月2日から10月30日まで。

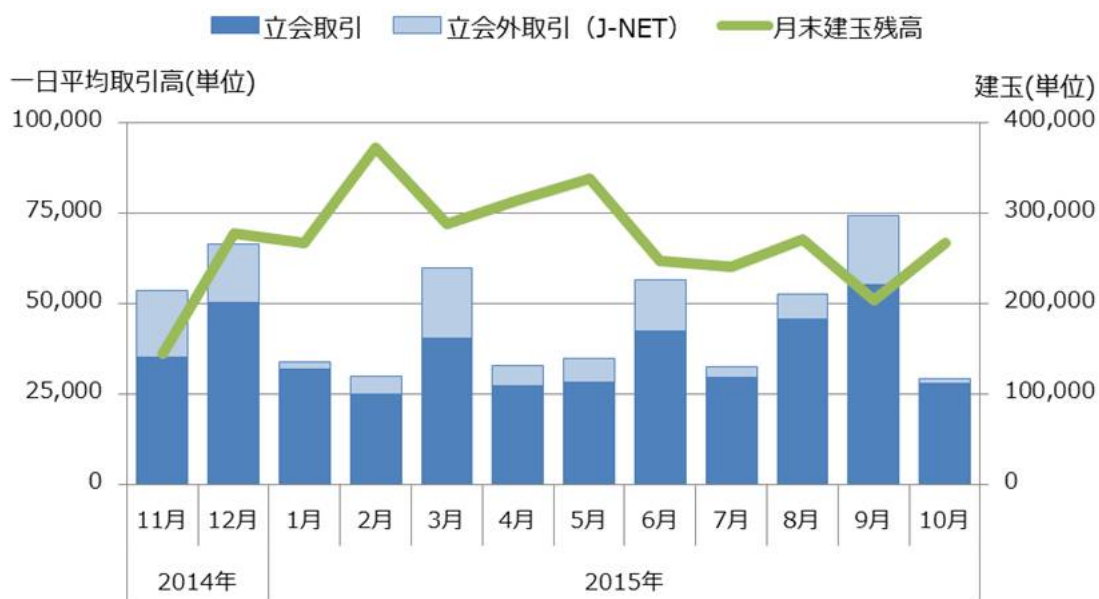
3. JPX 日経インデックス 400 先物取引の取引状況

(ア) 取引高及び建玉残高

JPX 日経 400 先物は 2014 年 11 月 25 日に取引が開始され、取引開始日の取引高は 71,514 単位の大商いを記録し、取引開始から 212 日目となった 2015 年 10 月 6 日には累計取引高が 1,000 万単位に到達した¹²。取引開始から 2015 年 10 月 30 日までの一日平均取引高は約 46,000 単位であり、大阪取引所の主要な指数先物商品の 1 つとなった。

¹² 212 日目での累計取引高 1,000 万枚到達は日経 225mini の 147 日に次ぐ早さ。

図表 13. 一日平均取引高及び月末建玉残高



出所：大阪取引所。2014 年 11 月 25 日から 2015 年 10 月 30 日まで。

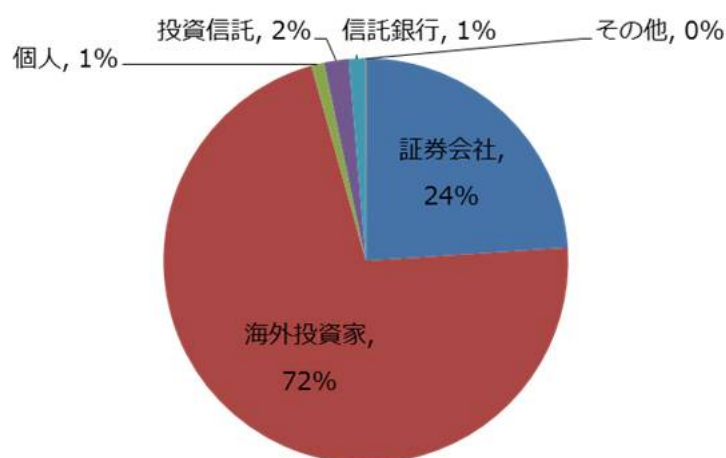
図表 13 では取引最終日が到来する 12 月、3 月、6 月及び 9 月に一日平均取引高が増加していることを確認できるが、これは保有株式のヘッジあるいは JPX 日経 400 連動ファンドの円滑な運用といった目的のために、長期に渡って建玉を保有するロング系投資家によるロール取引である。

(イ) 投資部門別取引状況

JPX のホームページで公開している JPX 日経 400 先物の週間投資部門別取引状況¹³ をグラフ化したものが図表 14 である。

¹³ <http://www.jpx.co.jp/markets/statistics-derivatives/sector/01.html>

図表 14. 投資部門別取引状況



出所：大阪取引所。2014 年 11 月から 2015 年 9 月までの累積取引高。

最も大きなシェアを占めるのは海外投資家の 72%であり、その要因として活発なマーケットメイカーの存在が考えられる。上述のとおり、JPX 日経 400 先物はマーケットメイカー制度を導入しているが、一般に、上場デリバティブ商品のマーケットメイカーは海外拠点から取引に参加していることが多いため、結果として海外投資家のシェアが大きくなっていると考えられる。また、筆者が海外で投資家訪問した際には海外にはマーケットメイカー以外にも JPX 日経 400 先物を使って現物資産のヘッジを行っている投資家、インデックスアープ取引を行っている投資家及び先物取引を利用して日本株エクスポージャーのコントロールを行っている投資家、といった様々なタイプの投資家の存在を確認している。海外投資家は多様な投資家が参加する厚みのある市場の形成に貢献していると言えよう。

個人投資家の比率は 1%と高い水準とは言えないが、JPX 日経 400 の指数自体が 2014 年 1 月に算出・公表開始されたばかりである点及び JPX 日経 400 先物は取引開始後 1 年を経過していない点を踏まえれば、今後の個人投資家層の拡大の素地が整いつつあると言えよう。JPX のホームページではインターネットを利用し、個人投資家向けに上場商品を取り扱っている証券会社の一覧を掲載しており¹⁴、同一覧によれば既に 7 社のオンライン証券¹⁵が JPX 日経 400 先物を取り扱っている。

(ウ) 相場急変時の取引状況

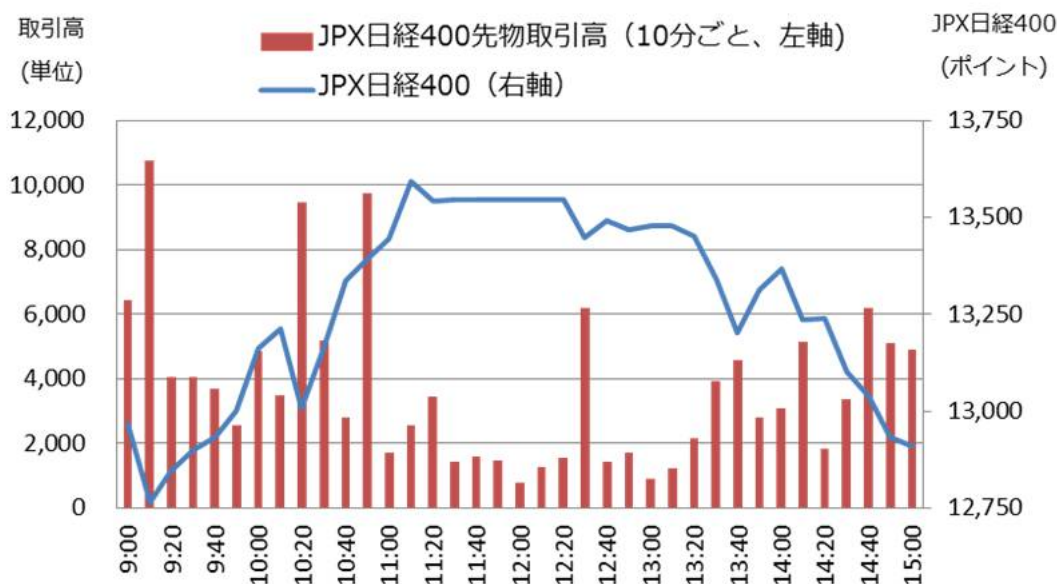
¹⁴ <http://www.jpx.co.jp/derivatives/securities-firms/400-futures/index.html>

¹⁵ 安藤証券、岩井コスモ証券、インタラクティブ・ブローカーズ証券、SBI 証券、カブドットコム証券、光世証券、むさし証券トレジャーネット（五十音順）

本年8月17日の週から翌週にかけての世界的な株式市場の急変動は多くの市場関係者の記憶に新しいところであろう。一般に、相場急変等で市場のボラティリティーが増大する場合、先物ポジションの調整等の取引ニーズが高まることからデリバティブ市場の取引高は増大する傾向にある。実際に、8月25日の大阪取引所の指数先物取引の取引高はこれまでで最高となる596万5,567単位を記録している¹⁶。

ただし、相場急変が必ずしも全てのデリバティブ商品の取引高の増加を意味するわけではなく、例えばマーケットメイカーがボラティリティーの増加に対応しきれずにBBO スプレッドが拡大するような場合には流動性が低下することが考えられる。図表15は8月25日のJPX日経400先物の日中立会取引について取引高(10分ごと集計)及び指数値の推移を示したものである。同図表から、JPX日経400先物市場が、9時10分及び10時20分に見られたような相場が大きく下落する局面においても、流動性が低下することなく、むしろより大きな流動性を呼び込みつつ取引されている様子を確認できる。また、図表16のとおり、同日の平均BBO スプレッドは通常時とほぼ同水準である1~2ティックの間で推移しており、投資家が、相場急変時においても通常時と同等の執行コストでJPX日経400先物を取引できていたことを示している。

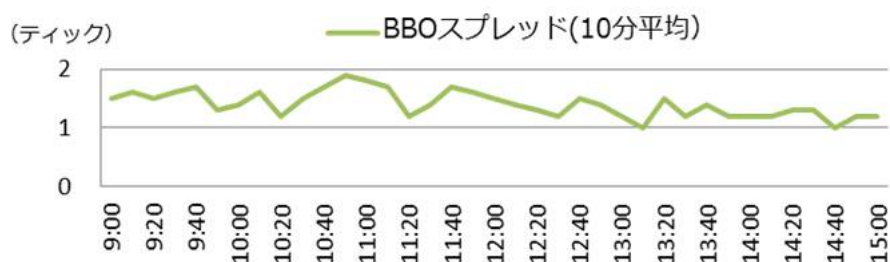
図表 15. 8月25日のJPX日経400先物の取引高及び指数値推移(日中立会)



出所：ブルームバーグを基に大阪取引所作成

¹⁶ 大阪取引所日報より。

図表 16. 8月25日のJPX日経400先物のBBOスプレッド推移(日中立会)



出所：ブルームバーグを基に大阪取引所作成。対象は2015年9月限月取引。

4. JPX日経インデックス400先物取引の更なる市場振興に向けて

(ア) 認知度向上施策

JPX日経400は指数算出・公表の開始以降、急速に知名度を高め、同指数に関連する現物及びデリバティブ市場は市場規模を拡大し続けてきた。特に、JPX日経400先物は日経225mini、日経225先物、TOPIX先物に続く大阪取引所の国内指数先物商品の一角を占めるまでに成長した。しかしながら、日本国内でさえ認知度向上の余地が残されており、海外においてはより一層の情報発信が求められている。

こういった状況を踏まえ、大阪取引所では様々な認知度向上及び取引振興施策を展開している。まず、JPX日経400先物取引の更なる市場拡大に向けて個人投資家向け手数料割引を行っている¹⁷。この施策は通常1単位当たり7円である取引手数料¹⁸を申請のあった取引参加者のうち個人投資家に係る取引(日中立会及び夜間立会)を対象に割り引く施策であり、本年12月末日まで実施する。また、JPXホームページにはJPX日経400先物の取引制度等の情報を取りまとめたパンフレット(日本語、英語)を用意している¹⁹。他にも、大阪取引所市場企画部では対面説明用の資料も用意しており、個別に商品説明を行っている²⁰。

(イ) 次期J-GATE稼働とJPX日経インデックス400オプション取引(2016年央予定)

大阪取引所は、2016年央に次期デリバティブ売買システム(以下「次期J-GATE」という。)を稼働する予定である。次期J-GATE稼働時には複数の新商品の上場を予定

¹⁷ <http://www.jpx.co.jp/news/2040/20150831-01.html>

¹⁸ 取引を行う場合には別途、日本証券クリアリング機構の定める清算手数料が発生する。

¹⁹ <http://www.jpx.co.jp/derivatives/products/domestic/jpx-nikkei400futures/index.html> ページ下部の「パンフレット類」参照。

²⁰ 個別の商品説明に関する詳細は本稿記載のお問合せ先まで。

しており、そのうちの 하나가 JPX 日経インデックス 400 オプション取引²¹ (以下「JPX 日経 400 オプション」という。) である²²。

JPX 日経 400 オプションの取引制度要綱は既に JPX ホームページに公表されており²³、同要綱に基づけば、JPX 日経 400 オプションの取引時間は他の指数オプション取引と同様に日中取引 (午前 9 時から午後 3 時 15 分まで) とナイト・セッション (午後 4 時 30 分から翌日の午前 5 時 30 分まで²⁴) となる。また、取引単位は指数の 1,000 倍 (JPX 日経 400 先物は指数×100 倍) を予定しており、オプション 1 単位当たりの想定元本は TOPIX オプション及び日経 225 オプションと同様に 1,000 万円台となる商品設計である。流動性対策としては取引開始日からマーケットメイカー制度を導入する予定であり、投資家にとって利便性の高い市場の整備を進めている。JPX 日経 400 オプションの上場により、現物株及び ETF を先物でヘッジするという戦略に加えて先物をオプションでヘッジするという戦略も可能となるなど、JPX 日経 400 に関連する取引戦略の多様性が高まることが期待される。その結果として、これまで以上に多様な投資家が参加する厚みのある市場が形成されていくことが期待される。

以上から、JPX 日経 400 先物は順調なスタートを切ることができ、日経 225mini、日経 225 先物及び TOPIX 先物に続く国内指数先物商品として大阪取引所を代表する商品の 1 つに成長しつつある。また、JPX 日経 400 及び JPX 日経 400 先物は日本国内のみならず国外の投資家からも広く注目を集めており、来年には日経 400 オプションの取引が開始されることもあり、これまで以上に投資家に活用されることが期待される。大阪取引所は、今後も投資家の皆様の利便性向上のために、JPX 日経 400 先物に関連するあらゆる取引活性化施策に取り組んでいく。

本資料に関する著作権は、株式会社大阪取引所にあります。
本資料の一部又は全部を無断で転用、複製することはできません。
本資料は、デリバティブ商品の取引の勧誘を目的としたものではありません。

²¹ 「JPX 日経インデックス 400 オプション」の呼称は現在検討中のもの。

²² <http://www.jpx.co.jp/news/2040/20150624-01.html>

²³ <http://www.jpx.co.jp/rules-participants/public-comment/detail/d8/20150624-02.html>

²⁴ 現行 J-GATE の指数オプション取引のナイト・セッションの終了時刻は午前 3 時であるが、次期 J-GATE では午前 5 時 30 分まで延長予定。 <http://www.jpx.co.jp/news/2040/20150624-01.html>